

上海⇄東京

子育てメール便(3)

橋本雅子
津守多実

まさことたみは東京の養護学校での仕事を通じて知り合った子育て仲間。まさこの子ども愛佳は三歳女児。たみの子どもクナは五歳男児。まさこ一家が夫、申屠（スンドウ）の出身地である中国上海に転居し、上海の暮らしがスタートしました。自然の中で遊ぶことが好きな二人が上海と東京の遊び場について語ります。

都会の中の自然探し

まさこ 東京では、遊具のある公園よりも、池や河川敷、草っぱら、雑木林などでよく遊びましたね。水中の生物を探したり、落ち葉や木の実、草の花を使って造形したり、木の枝で水鳥の羽を釣ったり。

そんなふうに自然に近い場所で遊び、生物を身近に実感できる機会を増やしたい、と探しているのですが、上海市内で原生林、雑木林が残っている場所で、申屠が思いつく所はないようです。

上海植物園には小川に小魚が泳いでいて、親子で夢中になりましたが、自宅から遠い上に庭園展示が主です。また万博会場に近く再開発のためか、建設現場から飛ぶ粉塵で、私がひどくせき込んでしまいました。雑草の種類一つとってみても、日本の身近な自然環境の豊かさ、生態系の複雑さを痛感する日々です。

たみ クナが好きなので、東京

の国立自然教育園によく行くので

すが、その講座に参加し日本の自然の豊かさを実感。しかし、人によって自然が壊されつつある危うさも実感。都会の真ん中にあることによって、自然の推移と衰退が自然教育園の中でわかります。

公園そのものが研究機関で天然記念物であって、自然を知る場所ではありませんが、触れ合う場所ではなく、触ってはいけない草花、入っては行けない場所が多く、遊ぶには不自由です。守らなければいけないということがよくわかる反面、触らなければ決してわからない、人と自然とのかかわりをどう取り持っていけばよいのか、考

えてしまいます。

このごろ、クナは植物に強い興味を示し、今日は幼稚園から帰ってきた後、家の近くの道端でカタバミ探しをして、種が跳びはねるのを恐れと興味のまなざしで見えました。渋谷の雑踏の植え込みに絡まっている草の種が熟すのを、毎日楽しみにしたり、何ともささやかな自然とのかかわりです。自然のものは、生理的な嫌悪感と興味の境目にあります。
まさこ カタバミ、偶然私たちも数日前に近所でみつけ、触っていました。顔まで種が飛び散ることが怖い一方、手のひらの中で種が弾けることがおもしろかったよう

でした。

ただ、以前は好んで手にした水を含んだその土の手触りを、しっかりと敬遠するようになっていました。渡中してからまいたハツカダアイコンを収穫したときにも、うれしさよりも手にねっとりつく生温かな泥の不快感がまさり、すぐに手を洗いたがりました。

クナくんのジジちゃんちで、遊びが盛りあがるうちに、お庭の畑に水を引き込んでぬかるませ、「チヨコレート工場」に見立ててバスを出し入れするうちに、自分たちが中にじゃぶんと入ったことがありますたっけ。

自分は不快だと思っていたけれ

ど、ほかの子の様子を見るうちに
楽しめるようになった、そんな機
会を母子二人、どうつくれるかが
課題というか。小麦粉とか、別の
素材で探っていこうかしら。

た み 養護学校でも、泥などの
べたつく触感を生理的に嫌う子
に、いかにしてそのおもしろさを
伝えるかは今も課題です。幼稚園
では、はやりの泥団子作りを、先
生が率先して子どもに伝えてい
ます。

クナも一時期好きで会心の作は
持つて帰ってきてたけど、本当に
自分からは好きにはなりません。
でも、ドロドロとした触感に対し
ての抵抗感はなくなりました。

小麦粉については、乾いた状態
から始めるといいですよ。サラサ
ラした粒子に触れるのはそれだけ
で楽しいから、気持ちと手が慣れ
ていきます。クッキー作りにして
しまっても。泥にせよ、小麦粉に
せよ、実際に触ってみると、子ど
も自身の新しい発見が生まれてき
ます。

こういうものと出合っしてほしい
という思いをもつこと、自由遊び
を観念的にも守ることは、現代の
この都会の子育てでは必要なこと
と思います。

まさこ こちらには砂場はめった
になく、あっても白い小さな砂利
です。泥団子を作れないどころ



か、固めにくい質感で、形を作り
にくく、砂山も穴も、作る端から
崩れていきます。また砂粒が大き
く、二〜四ミリ角くらいあって、
寝転ぶと痛いくらいです。おま
まごこのごはんくらいならいいかも
しれません。スコップでバケツに
入れる程度なら楽しめるのかも。

水はけがよく、衛生的に見えますが、子ども自身が材に引き込まれ、展開し始めるような魅力が感じられません。なせ子どもの遊び場にその材を選んでいるのか、意図がよくわかりません。

植栽用土は粘土質でかなり硬く、仮に日本の砂場と近い質感の砂を求めれば、建設現場から持ち帰るしかないかもしれない、と申屠と話しました。

子どもの遊び場として考えると、地域の古い公園のほうが緑も多く、魅力的。それでも庭園形式に植栽されていて、木に登ろうと思ってもまだ細く若く、ほかは竹林や、枝が高い位置にある針葉樹

です。愛佳は遊具で過ごすのはごくさわりで、私とただ走ったり、水のない人工の滝の岩場を登ったり降りたり（そんな遊び方をする幼児も児童も、ほかにはいません）。また、針葉樹の落ち葉を使って小さな家を作ったり。愛佳

は楽しかったようですが、成人の利用者が多いこともあって安全に迷惑もかからないよう遊び込めるような空間が見つけにくく、魅力ある遊びの空間や素材を提案するには、今まで以上に大人の機転や発想の転換が必要に思います。

残念ながらそこは、自転車でも時間がかかる距離なので、よく行くのは遊具のある公園です。遊具

に期待する気持ちが強くなったのでしょうか、日本に当たり前のようであった砂場、フランク、鉄棒、ジャングルジムなどの設備がないことで、その効用をかえって意識するようになっていきます。

子どもが見いだす遊具の魅力

たみ 遊具のありがたみ、あまり考えたことはありませんでした。私は独身だったころ、公園に遊具があると景観を損ねるし、自然とのかかわりに異物が入るようでげんなりしていたんです。そして養護学校で子どもとかわるようになって、公園での遊具の意義をさらに感じなくなり、遊具に頼

らず、公園の空間で子どもと楽しく過ごすためにどうしたらいいかということを考えるようになりました。

ところが、子どもが生まれて母親として子どもと公園で過ごしてみると、遊具には求心力があることに気づきました。遊具に助けられるとでもいうのか、親と子という一対一の関係に新しい展開が生まれ、ほかの親子との接点にもなります。

私は公園ではよく、学生時代のデザインの先生の「どんなものにも作った人の意図がある」という言葉を思い出します。使っていくと広がっていくもの、あっさり

終わってしまうもの、突き詰めると作り手の意図がそこにあるのです。公園の場合はさらに公園全体の

コンセプトや配置など、行政の考えも反映されますよね。東京近辺では、遊具の老朽化による事故が相次ぐ中、リニューアルした公園の遊具からは安全第一というメッセージが伝わってきます。

まさこ まさに上海も同じく、新しい遊具は二歳児が比較的安心して遊べるような作りです。登れるような木々もないので、ジャングリズムのように、自分の腕の力で全身を引き上げたり、不安定な場所でのバランスを取りながら重心を移動させるようなことを遊びの中

でしようと考えると、遊具の使い方から外れます。

たとえば、低い滑り台の丸屋根に上ったり、複合遊具の柵の外側をジャングリズムのように渡ったり、よじ登ったり。遊具近くの大人数健康器具を、アスレチックに見立て、全身で楽しめるような遊び方を創作しています。

一工夫した使い方でない、遊びが広がり始めるときの浮き立つ気持ち、お互いに生まれてきません。

今日街へ出かけた帰り道、バスの路線を間違え、延々と歩くことになった道中の出来事です。にぎやかな市場近くの小学校の隣の駐

車場で、小学四、五年生くらいの男の子三人が、一本の壊れたビデオテープから長い長いテープを引き出していました。横幅三メートル、奥行き五く七メートルくらいの広い範囲にテープを渡し、奥のブロック塀の柄の穴と、歩道脇の柵にテープを絡ませて、織り機の縦糸、横糸のように編んでいきます。夕暮れどきに、織られた黒いテープが風に揺れ、夕日を受けてキラリと反射します。

三人が集中して、それぞれがクモの巣のようなテープの中を、新しい糸をどこにくぐらすか工夫している光景は、疲れが吹き飛ぶほど素敵な作品でした！ 私も壊れ

たテープを使って楽しむことがありましたが、あれほど空間を広げ、変えるものとは思わなかったので、本当に新鮮でした。

上海での子育ての様子にはいろいろ思うところがありますが、こういうすき間があることを、本当にうれしく思います。

そちらでも、インスピレーションがわくものに出合えたらいいですね。そしてそんな出会いがあれば、また教えてください。

たみ 昔、よく古い音楽のセットテープが絡まっていた光景が思い浮かびました。あの、アナログさ。中国のよさは、そういうすき間にあるのかもしれないです

ね。東京では人の目が届かないすき間の遊びはあまりなく……。

駐車場での話が出ましたが、そちらでは子どもが走っている姿、見かけますか？ 日本の都市部では、路地も、道に面した公園も、子どもが走るには危ない場所で、親が子どもを追いかけている姿をよく見かけますよね。

まさこ 小区内の公園には柵がなく、周囲は住民の駐車場兼道路です。子どもたちは飛び出すことなく、器用に公園だけを走り、大人が追いかける光景は見ません。今度お話ししたいのですが、遊ぶときの子ども体の動きのこと、ちょっと気になっています。